

子どもたちに、モノ作りの楽しさを伝えたい

「おもちゃ病院島田」を立ち上げ、その院長を務める天野久さん。毎月、島田市博物館で開院し、市内外から持ち込まれる壊れたおもちゃの修理を無償で行っています。子どもたちの笑顔を原動力に、仲間と共に、楽しく活動を続けています。

【おもちゃ病院の開設】

「今から19年前、勤務先があった静岡市内でボランティア活動を始めようと思い、静岡市中央福祉センターへ相談に行きました。その時、子どもたちにセンターの一角を、おもちゃと遊ぶ場として提供している『おもちゃ図書館』が目にとまりました。僕が『何かを直すのが好きだ』とセンターの人に話すと、『壊れたおもちゃを直してくれないか』と頼まれたんです」

子どもの頃から、ラジオを組み立てたり、模型を作ったりすることが大好きだったとい



う天野さん。センター職員が紹介してくれたボランティア仲間と意気投合し、おもちゃ図書館の空きスペースで、壊れたおもちゃを修理する「おもちゃ病院静岡」を開設しました。



おもちゃ病院島田 院長
あまのひさし
天野久さん（相賀）

の縁で、平成27年8月の博物館無料開放日に合わせ、『おもちゃ病院島田』を開院することができました」
その後、主催の「子育てカフェ」にも参加。その年の10月からは、博物館で毎月第4日

【地元での開院に向けて】

「退職後は時間に余裕もでき、何かもつとできることがないか探していました。そんな時『広報しまだ』で博物館ボランティアの募集記事を見つけ、応募したんです。そ

曜日を開院しています。現在のドクターは50〜80代の男女8人。それぞれの経験を生かし、電気・裁縫など得意分野で修理を担当しています。その場で直せるのは3割程度。でも預かれば、全体の

約9割は直せます。直ったおもちゃを手にする子どもたちは、みんな本当にいい笑顔です」

【モノ作りへの関心を育てる】

「この活動は、子どもたちにモノ作りへの関心を持ってほしい、モノを大切にしたいとの思いから始めたんです。僕らは、やりたい事をやっているだけ。だから、治療費はいただきません。頼む人も心配いらないですよ」と話す天野さん。おもちゃの受け渡しには、子どもも一緒に来てほしいと、ドクターたちは口を揃えます。

「続けていると、僕らの作業に興味を持ってくれる子どももいます。機械好きな子に出会えると、自分の子どもの頃のようにうれしいですね。『自分のおもちゃは自分で直す』という人には、道具の使い方や直し方なども教えます」

子どもだけでなく、親にも、モノ作りの楽しさをもつと伝えたいと語る天野さん。おもちゃに向き合うと、童心に返ったように無邪気な笑みがかげられます。



開院日には、おもちゃを持った親子などが市内外から来院する

Shimadajin File #70

Story 島田人